

令和 5 年 5 月 22 日現在

機関番号：30105

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01301

研究課題名（和文）5～12世紀の東アジアにおける 術数文化 の深化と変容

研究課題名（英文）The Deepening and Transformation of "Shushu Culture" in East Asia from the 5th to the 12th Centuries

研究代表者

水口 幹記（MIZUGUCHI, MOTOKI）

藤女子大学・文学部・教授

研究者番号：40339643

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の研究成果として、以下の七点を挙げることができる。（1）術数文化 という用語の浸透、（2）各メンバーによる関連個別研究、（3）『天地瑞祥志』翻刻・校注の公開、（4）海外論文の翻訳、（5）国際シンポジウムの開催、（6）HPの公開、（7）成果報告書としての論文集の刊行である。特に本研究課題全体にかかわる問題である（1）は、承前の科研（JPS16H03466）での定義づけ以降、代表者である水口をはじめとして科研メンバーが各所で使用することにより、関連学界内での認知が高まった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「術数文化 網」というHPを公開したが、その中には 術数文化 の基本文献紹介のほか、関連の最新研究情報も載せられており、全世界から関連情報にアクセスできるようになったことの意義は大きい。術数文化 が関連学界内で浸透し始めたことと合わせて考えるに、東アジア全体で 術数文化 を検討し、分析する準備が整ったことになる。また、『天地瑞祥志』の校注も残存9巻のほぼすべての検討が終了し、全巻公開できる体制が整いつつあることは、今後の研究において非常に大きな意味を持っている。上記（2）（4）（5）（7）も広く 術数文化 を世に知らしめることができるものであり、本研究課題が斯界に寄与すること大である。

研究成果の概要（英文）：The following seven points can be listed as the results of this research. (1) The popularization of the term "Shushu culture (術数文化)," (2) related individual research by each member, (3) publication of reprints and annotations of "Tiandiruixiangzhi (天地瑞祥志)," (4) translation of foreign papers, (5) holding international symposiums, (6) publication of a website, and (7) publication of a collection of papers as a report of the results. In particular, the issue (1), which is related to this research project as a whole, has gained recognition within the related academic community through the use of this definition by Mizuguchi, the principal investigator, and other members of the institute in various places since its definition in the previous JPS project (JPS16H03466).

研究分野：東アジア文化史

キーワード：術数文化 天地瑞祥志 祥瑞 災異 天文 占術 東アジア

## 1、研究開始当初の背景

「術数」とは古代中国で成立した陰陽・五行の数理に基づく吉凶判断であり、占星術や暦などを通じ、前近代東アジアにおける社会理念として機能してきた。1960年代以降、安居香山や中村璋八、山田慶児、坂出祥伸らにより、占術と科学の両面による研究方法が確立し、また、中村は日本の陰陽道と中国の術数文化との関係を鋭く指摘し、術数文化の東アジア的展開研究の先鞭をつけた。

近年では、武田時昌が改めて「術数」を陰陽・五行理論を中心とする学問という広い枠組みで捉え直し、「術数学」の総合的研究グループを組織し、今日まで多様な成果を上げて来た。また、一方で、三浦國雄は「術数」を、呪術を含めた「術」(技術)として捉え、思想史研究者を中心とする共同研究班を組織し、占術書などの術数文献の整理を行った。ほかに、川原秀城が術数学を広義の「数」の学問と定義し、整理を行っている。

こうした状況の中、水口を代表として行った科研費基盤(B)「前近代東アジアにおける術数文化の形成と伝播・展開に関する学際的研究」(16H03466。以下、前研究)において、知識人たちの認識のみならず、一般庶民を含む諸階層、さらに、中国を中心とした周辺諸国・諸地域への伝播・展開を幅広くみることにより、術数に関わるもの(中国の中心的な術数からは異端、もしくは純粋に術数とみなせないものも含む)を「術数文化」と称し、前近代の東アジア世界を分析するタームの一つとして定義づけた。本研究は前研究を発展させるために設定されたものである。

## 2、研究の目的

本研究は、前研究での成果を軸に、東アジア世界をより深く分析し、人的・物的・政治的交流を主として論じられる対外関係史・交流史に対して、思想史・文化史の側面から新たな視角を提供するため、時期を限定し5～12世紀の「術数文化」を対象に議論を行った。その際、前研究では分析対象であった「術数文化」を本研究ではアプローチ手法に据え、「術数文化」が対象としていた世界認識そのものを対象化し議論することにより、東アジア的視点からの世界分析・現状分析の手法・概念を提示することができると考えた。

## 3、研究の方法

方法としては、各年度共に、研究課題検討会の開催(年3回)、国内・海外の術数関連資料調査及び交流、『天地瑞祥志』の翻刻・校注、海外関連論文の翻訳を柱として推進していった。その際、3つのテーマ別班(祥瑞災異班・天文班・占術班)を編成し、その上で初年度は祥瑞災異、次年度は天文・占術、最終年度は「術数文化」全体を年度課題とし検討を進め、さらには、地域別班(中国班・日本班・韓国班・ベトナム班)とクロスオーバーさせ、それを代表者である水口が統括することにより研究目的の遂行を図った。

## 4、研究成果

### (1) 術数文化 という用語の浸透

前研究において、知識人たちの認識のみならず、一般庶民を含む諸階層、さらに、中国を中心とした周辺諸国・諸地域への伝播・展開を幅広くみることにより、術数に関わるもの（中国の中心的な術数からは異端、もしくは純粋に術数とみなせないものも含む）を「術数文化」と称し、前近代の東アジア世界を分析するタームの一つとして定義づけた。その定義を浸透させるために、代表者の水口は「東アジア世界の中の陰陽道 術数文化 の視点から」（『現代思想』2021年5月臨時増刊号「陰陽道・修験道を考える」、2021年）、「東アジアという視点」から考える陰陽道（陰陽道史研究会編『呪術と学術の東アジア 陰陽道研究の継承と展望』勉誠出版、2022年）で、術数文化 から陰陽道を捉えなおす試みを行った。また、2021年度日本宗教史懇話会サマーセミナーシンポジウム「変革期の社会と宗教」において、「陰陽道・宿曜道別立隆盛の淵源 術数文化 の視点から」と題し報告を行った（のち、同題で『歴史評論』863、2022年に論考を掲載した）。こうした研究により、近年では「術数文化」という用語を使用し、その有効性を指摘する文章がみられるようになってきた（林淳編『新陰陽道叢書』第五巻・特論、名著出版、2021年。山下克明『陰陽道』臨川書店、2022年など）。このように、本用語も徐々にではあるが学界内外に認知され、浸透してきており、今後も東アジア社会を分析するタームとして利用されていく可能性が十分にあることが明らかとなった。

## （2）各班員による個別研究

以下、テーマ別班を基準に紹介する。名前の後のカッコ内は地域班別である。

祥瑞災異班：松浦（韓国）は、『山海経』の神馬「吉良」と晋受命伝説との関わりから、近年、東晋創業への関与が注目される郭璞の『山海経』の政治利用について検討した。儒家の聖人・古帝王に長寿を与える『山海経』西北仙境の金精の天獣の中、郭璞が白身・黄金目の千年馬吉良を特に重視したのは、それが晋受命の「金（白）馬」に通じる点の他、北方異族により南遷を余儀なくされた東晋が、北方故地を含む中華の正統王朝であることを嘉する瑞馬と見なした為と結論した。清水（中国）は、中世・近世の生活文化の中に術数学の核となる陰陽五行説についての探求を重ね、明代に出版された『遵生八牋』の「四時調攝」の中に五臓の神図が描かれていることに気づき検討を行った。その成果を「四季と五臓 『遵生八牋』を中心に」という論考にして上梓する予定である。佐野（ベトナム）は、仏教と術数の関係について、『広古今五行記』や『唐書』五行志を用いて分析を行い、また玄奘をはじめとする唐代の僧侶と呪術との関係について分析を行った。他、類書としての『天地瑞祥志』の成立状況についての分析を行った。洲脇（日本）『天地瑞祥志』第廿祭惣載「封禪」「郊」部分の翻刻・校注を担当し、公刊した。また『漢書』天文志注と後漢末に発展した「荊州学」について検討し、「術数文化」の進展と経学を始めとする当時の学術との関係性について考察した。

天文班：田中（中国）は、中国唐代の天文占書であり、日本の勸文にも多く引用される『乙巳占』に注目し、その書誌情報を整理するとともに、異本間における差異や成立年代に関する史料批判を行った。また、中国では確かな伝来・使用状況が確認できるのが宋代までであるのに対して、日本では遅くとも16世紀中頃まで勸文に引用されて使用され続けたことを明らかにした。特に勸文の引用からは、異文・佚文・節略・誤写などの例を明示するとともに、引用者の理解の

程度に疑問を提示しており、今後の『乙巳占』の校勘だけでなく、勘文の内容や、勘文作成者の意図を読み解く上での観点を提供した。高橋（韓国）は、朝鮮半島成立の『天文類抄』に、中国のいかなる知識が取り上げられているのかを検討した。また、中国で作られた「歩天歌」が中国・朝鮮半島・日本でどのように伝来・展開したのかについて検討した。これらの検討により、術数文化の変容について明らかにした。山崎（中国）は、中国古典文学における厠と井戸の描写、およびそれにまつわる道具などを主な検討材料とし、民俗学的視点から、古代中国の人々がそれらの場所・道具をどのようなものと認識し、如何にその象徴性を詩歌などに反映させたかを考察した。また、『天地瑞祥志』「井」部などの翻刻を行った他、瑞祥類書『稽瑞』に影響を与えた顔之推「稽聖賦」について新たな佚文を提示しつつその特徴を検討した。

占術班：名和（中国）は、術数文化の成立を遡及的に考察するために最新の出土資料を活用し、その起源と成立過程を明らかにすることに努めた。具体的には、虎溪山漢簡に見える占術を一次資料である竹簡の文字から検討し、その占術理論の一端を明らかにした。佐々木（ベトナム）は、ベトナムやフランスに所蔵される越南天文五行占書について検討を行った。また、中国歴代王朝で撰述された勅撰系天文五行占書と禁書政策について整理を行い、『天元玉曆祥異賦』や『天文大成管窺輯要』などの勅撰系天文五行占書がベトナムや日本に伝播した背景として、明末清初における禁書政策の有名無実化があったことを再検証した。

統括：水口（日本）は、前研究において定義したターム 術数文化 の学界内外での浸透を図るために、論文内及び学会報告で積極的に用語を使用した。特に、日本で独自に成立・発展したとされている「陰陽道」の研究において、術数文化の視点を導入することで、改めて東アジア的視野のもと、陰陽道研究をおこなうことができる可能性があることの指摘をした。

### （3）『天地瑞祥志』翻刻・校注の公開

類書『天地瑞祥志』訳注稿は、本研究課題開始以前から作成しているが、現在までの所、第一（『藤女子大学国文学雑誌』93・94号、2015・16年、水口・田中。全）第七（『大東文化大学紀要』60号 人文科学、2022年、田中。『同』61号、2023年、田中。『大東文化大学漢学会誌』61号、2022年、高橋。『同』62号、2023年、高橋）第十二（名和論集、水口。『藤女子大学国文学雑誌』104号、2021年、水口。一部）第十四（『名古屋大学中国語学文学論集』29号、2015年、佐野・佐々木。全）第十六（『大東文化大学中国学論集』35号、2018年、洲脇。『武蔵野大学日本文学研究所紀要』6号、2018年、深澤。『同』7号、2019年、深澤。『大妻国文』50号、2019年、深澤。名和論集、洲脇・山崎。『武蔵野大学日本文学研究所紀要』8号、2020年、深澤。全）第十七（『名古屋大学中国語学文学論集』31号、2018年、佐野・佐々木・山崎。『同』32号、2019年、佐野・松浦。全）第十九（『名古屋大学中国語学文学論集』33号、2021年、山崎・佐野。『青山語文』52号、2022年、山崎。一部）第二十（名和論集、名和。『人文社会論叢』1号、2022年、清水・洲脇。一部）が公開済みである（下線部が本研究期間中の成果）。残すところはあとわずか（第七・十二・十八・十九・二十及び佚文）となっており、全面公開がなされたときには斯界に与える影響は多大なものであると思われる。（名和論集とは名和敏光編『東アジア思想・文化の基礎構造 術数と『天地瑞祥志』』汲古書院、2019年を指す）

#### (4) 海外論文翻訳

本研究では、韓国・中国・ベトナムの術数関連論文を7本翻訳し、そのうちの5本を(7)の論集に所収予定である。今まで余り知られていなかった関連論文を日本で紹介することができ、その影響は計り知れない。

#### (5) 国際シンポジウム開催

2022年9月3日に科学研究費基盤研究(C)「東アジアにおける天文占知識の形成と伝播」(代表:田中良明) 科学研究費基盤研究(C)「中国古代術数学における占術と儀礼」(代表:名和敏光)との共催で、国際学術シンポジウム「術数文化の世界 学術・占術・文学」を開催した(於青山学院大学。ハイブリッド形式)。プログラムは以下の通りである。

趣旨説明 水口幹記

基調講演 (司会:水口幹記)

・水口拓寿(武蔵大学教授)「術数」概念を再考する 「術数文化」研究の補助線として」

個別報告 (司会:田中良明)

・小倉聖(大東文化大学非常勤講師)「馬王堆漢墓帛書に見える刑徳を用いた風占と銀雀山漢墓竹簡に見える八風占との比較」

・高橋あやの(分担者)「朝鮮天文学の知識の源泉 朝鮮初期『天文類抄』を例として」

・山崎藍(分担者)「顔之推「稽聖賦」について」

コメント・総合討論 (司会:名和敏光;分担者)

コメント:武田時昌(京都大学名誉教授・関西医療大学客員教授)

鄭宰相(円光デジタル大学助教授)

#### (6) HPの公開(URL:<https://shushu.temmon.org/>)

「術数文化 網」というHPを開設し、公開した。「術数文化 網へようこそ」「術数文化の関連文献・研究」「『天地瑞祥志』について」「研究活動」「関連情報」の各タグで構成され、「術数文化の関連文献・研究」はさらに「術数文献の基本文献」「術数文化の研究図書・論文」項目に分かれ、術数文化に関する基本的事項から最新の研究情報までを掲載している。また、「『天地瑞祥志』について」では、項目と翻刻の刊行状況のほか、先行研究もあげている。HP公開により、術数文化 研究が日本のみならず世界からアクセスが可能となり、今後より広い議論が期待できる。

#### (7) 成果報告書としての論文集の刊行

本研究課題終了後、成果報告書としての論文集の刊行を企図し、現在編集中である。編著者は代表の水口が担当し、タイトル(仮題)は『東アジア的世界分析の方法 術数文化の可能性』(文学通信)である。第一部「術数文化の世界」、第二部「術数文化の諸相」、第三部「天文占書解題」と全体を3部に分け、本課題分担者・研究協力者のほか、本課題検討会において報告した外部スピーカー、協力をお願いした海外研究者など総勢28名(うち翻訳論文4名)が執筆者に名を連ねている。本書の刊行は、術数文化 研究の基礎をなすことはまちがいなく、今後の進展が期待できる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 水口幹記	4. 巻 49-549-5
2. 論文標題 東アジア世界の中の陰陽道 術数文化 の視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 122-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 水口幹記	4. 巻 104
2. 論文標題 京都大学人文科学研究所蔵『天地瑞祥志』第十二翻刻・校注（二） 「正月朔旦候風」「五音風」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 藤女子大学国文学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松浦史子	4. 巻 37
2. 論文標題 敦煌佛爺廟灣墓に表された人面魚・飛魚の世界一瞥・前涼の『山海経』受容と西北認識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿島美術研究	6. 最初と最後の頁 516-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松浦史子	4. 巻 1
2. 論文標題 コラム・『山海経』go!	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 江藤茂博他監修、松本健太郎他編『日中文化のトランスナショナルコミュニケーション・コンテンツ・メディア・歴史・社会』、ナカニシヤ出版	6. 最初と最後の頁 113-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦史子	4. 巻 1
2. 論文標題 空飛ぶ人面魚一瞥・前涼の『山海経』受容と西北認識	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『石川忠久先生星壽祈念論集 菊を採る東籬の下』、汲古書院	6. 最初と最後の頁 403-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎藍、佐野誠子	4. 巻 34
2. 論文標題 京都大学人文科学研究所蔵『天地瑞祥志』第十九翻刻・校注(五)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋大学中国語学文学論集	6. 最初と最後の頁 1-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 名和敏光	4. 巻 3
2. 論文標題 “諾皋”考(修訂版)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 出土文献語言研究	6. 最初と最後の頁 197-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 名和敏光	4. 巻 1
2. 論文標題 “皋”與“澤”(修訂版)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 楚文化與長江中游早期開發國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 374-378
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 名和敏光	4. 巻 1
2. 論文標題 虎溪山漢簡“X日而憂置城Y歳”考釋	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 復旦大学出土文献与古文字研究中心HP	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 名和敏光	4. 巻 1
2. 論文標題 虎溪山漢簡《閻昭》(下)綴合	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 復旦大学出土文献与古文字研究中心HP	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 名和敏光	4. 巻 1
2. 論文標題 馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲編—《祭(三)》《宜忌》《諸日》《祭(二)》綴合校釋	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『石川忠久先生星壽祈念論集 菊を採る東籬の下』、汲古書院	6. 最初と最後の頁 383-402
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭淳一	4. 巻 34
2. 論文標題 9世紀後半の日本における弩師配置の背景(原文韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 韓国古代史探究	6. 最初と最後の頁 213-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 鄭淳一	4. 巻 51
2. 論文標題 新発見唐代墓誌と日本の遣唐使吉備真備 《李訓墓誌》の紹介を中心に (原文韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史研究	6. 最初と最後の頁 329-345
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭淳一	4. 巻 247
2. 論文標題 主題制限性の脱皮のための方法論の転換 日本前近代史研究の動向と課題 (原文韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学報	6. 最初と最後の頁 339-375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 水口幹記
2. 発表標題 陰陽道・宿曜道別立隆盛の淵源 術数文化 の視点から
3. 学会等名 2021年度 (第5期第1回通期29回) 日本宗教学史懇話会サマーセミナーシンポジウム「変革期の社会と宗教」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 山崎藍	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 中国古典文学に描かれた廁・井戸・簀 : 民俗学的視点に基づく考察	

1. 著者名 山崎藍（高芝麻子・遠藤星希・田中智行・馬場昭佳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新典社	5. 総ページ数 308
3. 書名 とびらをあける中国文学－日本文化の展望台	

1. 著者名 鄭淳一（韓国古代史探究学会編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 景仁文化社	5. 総ページ数 512
3. 書名 古代軍事史と東アジア（原文韓国語）	

1. 著者名 鄭淳一（東北亜歴史財団編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東北亜歴史財団	5. 総ページ数 763
3. 書名 東アジア史入門（原文韓国語）	

1. 著者名 鄭淳一（鈴木康民監修，高久健二ほか編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 488
3. 書名 古代日本対外交流史事典	

〔産業財産権〕

[ その他 ]

術数文化 網  
<http://shushu.temmon.org/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	洲脇 武志  (SUWAKI TAKESHI)  (10625156)	愛知県立大学・日本文化学部・准教授    (23901)	
研究分担者	喜多 藍 (山崎藍)  (KITA AI)  (10723067)	青山学院大学・文学部・准教授    (32601)	
研究分担者	名和 敏光  (NAWA TOSHIMITSU)  (30291868)	山梨県立大学・国際政策学部・准教授    (23503)	
研究分担者	佐々木 聡  (SASAKI SATOSHI)  (60704963)	金沢学院大学・文学部・講師    (33305)	
研究分担者	高橋 あやの  (TAKAHASHI AYANO)  (60734241)	関西大学・東西学術研究所・非常勤研究員    (34416)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	清水 浩子  (SHIMIZU HIROKO)  (80307131)	大正大学・総合仏教研究所・研究員    (32635)	
研究分担者	藤井 誠子 (佐野誠子)  (HUJII SEIKO)  (80359827)	名古屋大学・人文学研究科・准教授    (13901)	
研究分担者	松浦 史子  (MATSUURA FUMIKO)  (80570952)	二松學舎大學・文学部・准教授    (32664)	
研究分担者	田中 良明  (TANAKA YOSHIAKIRA)  (90709354)	大東文化大学・東洋研究所・准教授    (32636)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------